



うきうき コドモックル

季刊 第19号

2012.5.31発行

北海道立子ども総合医療・療育センター長

鈴木 信寛



本年4月よりセンター長を務めさせていただいている鈴木信寛です。これまでは札幌医科大学小児科に勤務し、20年以上にわたり小児の血液・腫瘍性疾患を担当していました。

コドモックルは、平成19年9月に小児の総合的で高度なケアが可能となる施設として新たに設立されましたが、療育部門の前身は昭和27年11月設置の北海道整肢学院からはじまり、医療部門の前身は昭和52年6月に診療を開始した道立小児総合保健センターであるため、ソフトの面では伝統のある施設と言えます。統合された現在のセンターは、16科が北海道全域からの病気や障がいをもったお子さんのために、連携を密にして高度な医療とともに科学的なリハビリテーションを行っています。

また、就学されているお子様は渡り廊下でつながっている手稲養護学校に通学することが可能であり、未就学のお子様は保育士が対応するなどの生活環境も整えてあります。

今後も、北海道の子ども達のために、保健・医療・福祉を提供できる施設として、さらなる充実と発展が求められていることを職員一同認識し、治療、リハビリテーションなどを必要性に応じて総合的に、そしてよりいっそう柔軟かつ的確に行われるよう努力していきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

看護部長 西川 優子



4月に看護部長として道立北見病院から異動してきました。これまで病院勤務の経験しかありませんので、センターに着任し、保健、医療、福祉の融合と充実、そして多職種の協働があって、子ども達が持てる力を発揮できていることを目の当たりにしています。

「対象が自然治癒力を発動するのに最も良い環境を提供する」これがナイチンゲール看護論であり、自分の看護の原点でもあります。この視点を持ってセンター内をラウンドすると、一人一人が必要な時期に、適切な場所で、必要な支援が受けられることを目指し、センターの基本理念に掲げている「有機的連携」の実際をみることができます。

「人は誰もが何らかの意味があってそこに存在する」という言葉から、私の役割は個々の看護師が持てるキャリアを最大限に発揮できるように、教育も含め職場環境を整えることだと認識しています。

とりあえず一週間後に開催される就職説明会において、学生の心に響くプレゼンテーションを行い、採用試験の応募者数を確保しセンターにおける人的環境を整えることを最優先課題としています。

どうぞよろしくお願いいたします。



職員紹介

平成 24 年4 月に異動となった、職員を紹介します。

医療・母子病棟師長 北澤恵子



出身地：新潟県
前任地：道立江差病院（前々任地：コドモックル母性病棟、NICU）
抱負など：元気はつらつ、楽しく看護していきたいと考えます。 よろしくお願ひします。

神経科 福村忍



出身地：京都府
趣味：読書
得意分野：小児神経、筋疾患
抱負など：東京の国立精神・神経医療研究センター病院というところで2年間、小児神経、筋の勉強をして、この4月に北海道に帰ってきました。よろしくお願ひします。
肩下げかばんを持っていることが多いので、そんな医者を見たら気軽に声をかけてください。ちなみに中身は、聴診器、打腱器、メジャー、ペンライト、ストップウォッチ、くるくる回るおもちゃ（乳幼児の眼球運動みるために使ってます）、舌圧子、シャーペン、デジカメなど診察グッズです。

泌尿器科 田端秀敏



出身地：函館市
趣味：ドライブ
得意分野：泌尿器科一般
抱負など：小児の診療にあたる責任を感じ日々過ごしています。 よろしくお願ひします。

脳神経外科 大川聡史



出身地：青森県
趣味：写真、バイク、コンピューター
得意分野：脳神経外科一般
抱負など：患者さんはもちろん、家族にもスタッフにも優しく笑顔で安心してもらえる様、がんばってきます。

リハビリ科整形 村橋靖崇



出身地：帯広市
趣味：アイスホッケー
抱負など：皆さんのお役に立てるよう頑張ります。

小児科後期研修医 白石真大



出身地：横浜市
趣味：読書、サッカー、音楽鑑賞
得意分野：現在模索中
抱負など：2年間コドモックルでお世話になります、まだまだ未熟ではございますが、少しでも皆さんのお役に立てたらと思っています。

小児科後期研修医 荻原重俊



出身地：群馬県
趣味：スノーボード、スキューバダイビング
得意分野：一般小児
抱負など：皆様のお役に立てる様がんばっていきます。 よろしくお願ひ致します。